

みんなで作る
森ものがたい

2022年12月4日発行 第144号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
 福岡市南区大字桧原855-4
 油山市民の森管理事務所内
 TEL: 092-871-6969
 FAX: 092-801-1463
<http://www.morikai.org/>
 mail: aburayama@morikai.org



<11/6 カブトムシの森 クヌギの伐採>

	表紙	1
	活動ノート (8/21,9/4,9/25,10/2,10/16,11/6,11/20)	2~4
も	特集「カブトムシの森 林床植生調査」	5~6
	油山のお仕事日記「ホンドギツネ」	7
く	「私が森にいる理由」	7
	うん・えー会報告 (8/21)	8
じ	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は（公財）福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



8月21日(日)

備品管理

11:30~14:30



◆参加者：11名

◆内容：今回は主に秋から春にかけて行う広葉樹の除伐や材処理に使用する安全用具や機械の整備を行いました。ヘルメットは洗剤を混ぜた水で湿らせた布で汚れを拭き取った後、水だけで湿らせた布で拭き取り自然乾燥させました。大人用は11個を選んで赤テープでマーキングし優先使用することにしました。チャップス(チェーンソー作業防護用)は30℃位の湯で中性洗剤を使って洗い、最終的な乾燥は時間の都合から倉庫内で行う事としました。

チェーンソーはメンテナンス会社で点検(7月)後として初めて動かし、オイルの出具合等を確認調整して本番での運転に備えました。

刈払機(1号機)はギアケースのグリス交換を行って当面のアカマツ林草刈り(10月予定)に備えました。

一方、倉庫内では各種道具の員数チェックを実施して、備品管理台帳の更新を行いました。

今日は深夜の雷雨も納まり、午後は日差しも出て作業日和となりました。蒸し暑い中でしたが参加された皆さんの協力で予定通りの作業が出来ました。

【ふりかえりより】

・道具の確認を行いました。道具の名称や数量を確認しやすくする必要がありますと思いました。

9月4日(日)

木工教室

9:30~15:30



◆参加者：6名

◆内容：小枝のハンコ作りでは、焼きペンの使い方が難しかったようでした。鏡文字にチャレンジする人はいませんでした。次に小枝を使った色えんぴつ作りに取り組みました。初めて又は久しぶりにドリルを使うため、ドリルを安全に使う方法、穴のあけ方などを学んでもらいました。お昼からは、ドリル作業が主な小枝の笛作り。完成しましたが、みんなうまく吹けませんでした。材料が残っていたので、鳥の鳴き声がするバードコールを作成しました。穴をあけ、ネジをねじ込むのに力が必要で大変でした。最後に簡単にできる年輪パズルを作りました。丸太を輪切りするだけだけど、斜め切りになったりしました。木目だけより絵も描いたら面白いので、マジックで絵を書いてもらいました。

【ふりかえりより】

・たくさん色んなものを体験させてもらえました。子供たちも色々な道具に触れさせてもらえてすごく貴重な経験になったと思

ます。(一歳児がのこぎりやドリルを使う大人の様子を真剣に見ていたのが驚きました。)

・木の材質や状態で作品を色々作ることが体験できました。実際ドリルで穴を開けたり、のこぎりで切ったり、やってみるとわかること、楽しいことがたくさんありました。また色々作ってみたいですし、木を再利用して楽しみ、生活とつながるものに気づき、得ることの多い体験でした。

9月25日(日)

草木染め

9:30~14:30



◆参加者：9名

◆内容：今回はノグルミの葉を煮て染液を作るので、大きな枝ごと採取、レクチャールームのベランダにて全員で葉を取り大鍋に入れました。途中、クサギの木を発見し採取しましたが7個しか実が取れず…数年をかけて収穫し冷凍保存していますが、クサギの実のブルーの染色への道のりは遠いです。

ノグルミの葉を大鍋に入れて煮だしている間、染める布に模様を付けるための準備をしました。ビー玉を輪ゴムでとめて絞り模様や、蛇腹に折って割りばしで留めチェック模様、途中、木の枝を切り、輪のような模様をつける準備も出来ました。濃い茶色になった染液に布を入れ昼食にしました。

昼食後は、色を定着させる媒染作業から始めました。ミョウバンの媒染液と鉄の媒染液につけて20分以上放置し、その間に、布の間に植物の葉や花を置いて、上からプラスチックハンマーで叩く、叩き染めをしました。

葉の形がそのまま布に移るのですが、種類によっては形が移りにくい葉もありました。

大人がするとききれいに形が出ました。小さい子どもは叩く時に葉が動くので、にじみやすくなりました。

その後、媒染した布を水洗いします。ミョウバン媒染は薄い茶色に、鉄媒染は濃紺になりました。

洗いながらビー玉などを取っていくのですが、この作業が思いのほか大変でした。

最後に全員の作品を紐に干して鑑賞しました。

【ふりかえりより】

・叩き染めが面白かったです。色の保全方法があるといいのですが、染めるのには仕込みと手順が大事です。

・初めての草木染め、どんな柄が出るかわくわくでした。たたき染めは色が出る葉と出ない葉などがありました。とてもきれいでした。

10月2日(日)

アカマツ林整備作業

9:30~15:30



◆参加者：13名

◆内容：平地の気温は30℃を超える真夏日というハードな作業環境での整備活動となりました。本格的な手入れは半年ぶり。夏の間伸びた草や萌芽枝に覆われて、アカマツの実生や幼木はそれ

に埋もれるような状態になっていました。アカマツは日当たりの良い明るい場所を好む陽樹です。この日の活動目的は、草や広葉樹萌芽枝の刈り取りを行って生育の手助けをすることです。

全員で作業エリアの確認を行った後、班分けはA、C・D地区の遊歩道沿い班、C・D地区の斜面班としました。遊歩道は尾根筋にあり、アカマツが好む場所です。草の中に埋もれた赤ちゃん松を見つけた時は、せん定バサミで丁寧に周囲を刈り取って日当たりを良くしました。直立して背の高くなるカヤも刈って歩きやすくしました。また体験参加者には会の代表から森会活動の目的や安全作業のことを説明し、作業に参加してもらいました。

一方のC・D地区斜面は中腹を横断する作業道が草で覆われて見えないほどの状態でしたので、7人がかりで作業を行いました。作業道より上部は手ガマ、下部は刈払い機を使うこととし、安全のため作業間隔をあけて刈りました。急斜面が多く、しかも直径2cmほどにも生じたヌルデ等広葉樹の萌芽枝やトゲのある草木があちこちに生えており、刈払い機でもなかなか刈り進めない状態でした。

加えて暑かったので作業が終わった時は、皆へとへとでした。でもその成果で斜面の幼木の日当たりも大分良くなり、作業道も大体、元の状態にできました。また実生が増え幼木が確実に生長していました。

【ふりかえりより】

・はじめてのアカマツ林での草刈りでした。アカマツを守るには、草刈りが大切なんだとはじめて知りました。

小さな松の子をみつけたのには感動でした。持続可能な森に協力したいと思いました。

10月16日(日)

カブ森植生調査

9:30~15:30



◆参加者：6名

◆内容：5m×5mの区画4つを調査し、調査方法は蕾、花、果実の付いている植物の種類と被度を調べました。午前中は、同定と記録係に分かれ調査を行いました。

午後は、カブトムシの森の草刈りと8月につけた名札の確認をしました。

調査区内では18種確認できました。出現種としては昨年並みで初めて出現した種類ありませんでした。

今年占有面積は多かった植物は、又スビトハギとミヤマササガヤでした。

【ふりかえりより】

・コバノボタンズルがタラノキに下がりモビールのように綺麗でした。植物をみんなで見ると発見がたくさんあります。

・過去の出現種の写真付きのリスト票を持参したので確認が早くできました。今年はイノシシによる掘り起しが多く、林床が荒らされている感じでした。

10月16日(日)

カブ森整備作業

9:30~15:30



◆参加者：10名

◆内容：遊歩道西側のササなどを刈りました。

手道具での草刈りは、撤去された橋のあった辺りから遊歩道沿いに東へと実施しました。

体験参加の2名には南西角の入口から、遊歩道とその周辺の草を刈って貰いました。

午後になると湿地に向かう斜面の草刈りも一部手を着けることができました。

これまでなかなか完全に草刈り出来てなかった西側一帯は、今回の作業で見事に片付きました。これで来月からの伐採がやり易くなりました。

【ふりかえりより】

・普段見られない植物や虫の生態を知れて面白かったです！とても疲れたけど、達成感もあったし、カビが生えたセミには驚きました。

11月6日(日)

カブ森作業 クヌギ伐採

9:30~15:30



◆参加者：14名

◆内容：A地区内を回って伐採予定木の確認をしました。

今回はセンター行事としての利用が無くなったとのことで、楢木用としての伐採は森会用に細目のものを3本伐採し、時間があれば萌芽更新の伐採をすることにしました。

休憩小屋前方の伐採を担当した班は、クヌギ伐採の前に邪魔になるホオノキの伐採から始めました。

伐採したホオノキは扱いやすい程度に処理して遊歩道脇沿りにまとめて、後日川向うに移動予定です。ホオノキは萌芽枝があったので保全して成長させることにしました。

本命のクヌギの伐採は午後までかかったため、萌芽更新の為の伐採は諦めました。

西側遊歩道下部のクヌギ伐採は、伐倒後に遊歩道に掛かった部分の移動が必要だったので玉切りに苦闘しました。それでも更にC地区で楢木用1本の伐採をしました。

草刈りは10月の作業で残った植生調査地区周辺を中心に行いました。子供たちが頑張ってくれて広い区域がスッキリして、里山の秋の雰囲気が出てきました。

【ふりかえりより】

・少しでしたがササ刈りをしました。お天気がよく、とても気持ち良く作業できました。冬イチゴやドングリなど摘むことができ子どもたちもとても楽しんでいました。

・久しぶりの伐採は忘れていたことも多く手順を確認しつつ行ったり来たりでしたが、ケガなくできて良かったです。

11月20日(日)

アカマツ林整備作業

9:30~15:30



◆参加者：7名

◆内容：C~E地区の草刈り、萌芽枝刈りをしました。

参加者は午前中7名、午後6名の少数精鋭となりました。先月に続き草・萌芽枝刈りを行って、アカマツの幼木や実生の日当たりを良くし生長を促すことが目的です。作業エリアはC~E地区の傾斜地です。まずは全員で作業現場を確認し、「これは大変そう！」の聲が漏れるほどの藪状態になっていました。

身支度を整え、二班に分かれて作業開始。C、D地区は斜面中程の作業道から上部の尾根筋にある遊歩道まで、E地区は遊歩道から下がすぐ崖になっているような場所です。どこも硬いシダや棘性の草木が繁茂し至る所に広葉樹の萌芽枝が出ていて、その中にアカマツの幼木や実生が埋もれている状態でした。

長柄ガマや刈込バサミで刈る所あり、中厚ガマや剪定バサミ、ナタノコを使い分けながら刈り進める所あり、そして幼木や実生の周りは丁寧に、トゲトゲ植物に悩まされながら中々骨の折れる作業でした。急斜面が多く足場が悪いので、常に安全に気を付けていないといけない気の抜けない作業でもありました。

全員の頑張りの甲斐あって予定していた整備作業をほぼ終えることができ、幼木や実生の日当たりも随分改善できたと思います。遊歩道から眺める景色も見違える様にスッキリとなり見通しの良い明るいアカマツ林になって、皆、疲れの中にも満足の表情でした。

また、来年1月予定の柏陵高校研修の体験伐倒の対象木選定も合わせて行うことができました。

【ふりかえりより】

・気持ちの良い秋風の中たくさん萌芽枝と戦い、すっきりとしたアカマツ林となり、多くの幼木を草陰から救出できました。

カブトムシの森 林床植生調査の報告

カブトムシの森のA地区で保全活動が林床植生に与える影響を調べるために、林床植生調査を行っています。2015年度から年2回(春と夏)、あまり種の変化が見られなかったため、2016年度から春と秋に行っています。

今年度は春(4月17日)、秋(10月16日)に実施しました。

調査は、10m×10mの調査区を4つに分けて、5m×5mの区画4つ(調査区I~IV)で行いました。蕾・花・果実が見られる種を記録すると共にそれぞれの植物の被度の計測を行いました。

被度は、階級の大きい方から、5、4、3、2、1、+の5つに分けられます。

秋の調査表を次のページに示しています。

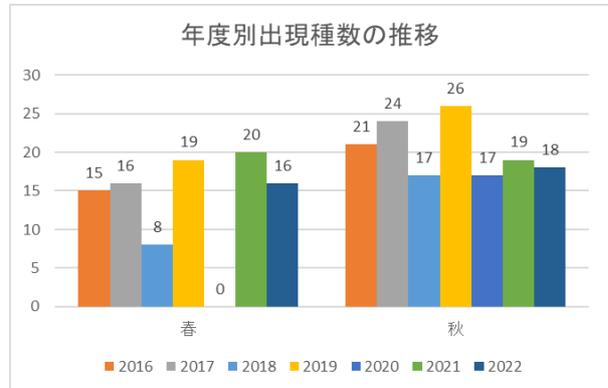
春の調査で16種類、秋の調査で18種類を確認する事ができました。多くは、過去の調査で見られた種が殆どですが過去7年の出現種数を比べて見ても多少の増減はありますが大きく変わっていません。

今年の秋に被度が高かった種はイネ科の「ミヤマササガヤ」とひつつきむしでお馴染みの「ヌスビトハギ」でした。その他、数が多くはありませんでしたがコバノボタンツルも例年より多くみられました。

新しく加わった種としては、1種、油山では普通種ですが「キツネノマゴ科のキツネノマゴ」です。この花は、幸せを呼ぶ青いハチ「ブルービー」の吸蜜植物でもあります。

種類の増減は、その年の調査時期、気象条件に左右されるためと思われます。

■過去7年の出現種数



調査区内で年によって多い種類、少ない種類、新しい種、見られなくなった種など多少はあるものの種数は、ほぼ横ばいであり、これは調査区内及び周辺のクヌギの伐採が進んでおらず、日照条件が変わらないことであまり種数に変化のない安定した状態と言えます。

今後のカブトムシの森全体の保全作業としては、クヌギの萌芽更新と夏に名札付けを行った植物の保護・育成であり、今後は、会員で情報共有し、バランスの良い森にするための保全作業を行いたいと考えています。一部でより豊かな植物相を形成するため試験的に裸地(人為的なかく乱)を作り、埋土種子や近隣からの飛来による発生を促すと共にカブトムシの森以外の市民の森内からの表土移植や種子採取・散布なども試験的に行いたいと思います。

調査区の様子



調査の様子



カブトムシの森 林床植生調査

実施日: 2022/10/16

出現種					被度の階級値				形態
目	科	亜科	属	種	区画 I	区画 II	区画 III	区画 IV	
イネ目	イネ科	キビ亜科	チジミザサ属	ケチチミザサ	+				果実
イネ目	カヤツリグサ科		スゲ属	ナキリスゲ	+			+	果実
イネ目	イネ科	イネ亜科	ミヤマササガヤ属	ミヤマササガヤ	+		1	+	花・果実
イネ目	イネ科	キビ亜科	チジミザサ属	チジミザサ		+	+	+	果実
イネ目	イネ科		ササガヤ属	ササガヤ		+		+	花
ツククサ目	ツククサ科	ツククサ亜科	ツククサ属	ツククサ	+	+		+	花・果実
マメ目	マメ科	マメ亜科	ヌスビトハギ属	ヌスビトハギ	1	+		+	果実
マメ目	マメ科		ヤブマメ属	ヤブマメ		+	+		果実
バラ目	バラ科	バラ亜科	キイチゴ属	フユイチゴ	+	+	+	+	蕾・花・果実
フウロソウ目	フウロソウ科		フウロソウ属	ゲンノショウコ	+	+	+	+	果実
ナデシコ目	タデ科	ミチヤナギ亜科	イヌタデ属	ミズヒキ	+	+	+		果実
ナデシコ目	タデ科	ミチヤナギ亜科	イヌタデ属	イヌタデ				+	花
ナデシコ目	ヒユ科		イノコヅチ属	ヒカゲイノコヅチ		+		+	果実
キク目	キク科	キク亜科	ヨモギ属	ヨモギ	+				果実
キク目	キク科	キク亜科	シオン属	シュウブンソウ	+	+	+		果実
マツムシソウ目	スイカズラ科		スイカズラ属	スイカズラ	+				果実
キンポウゲ目	キンポウゲ科		センニンソウ属	コバノボタンヅル		+	+		果実
シソ目	キツネノマゴ科		キツネノゴマ属	キツネノマゴ		+			蕾・花

被度階級の階級値	調査5m四方	備考
5	3/4以上	
4	1/2~3/4	
3	1/4~1/2	
2	1/4~1/10	
1	10%未満1%以上	1.6m四方
+	1%未満	0.5m四方未満

IV	III
I	II



油山のお仕事日記

「ホンドギツネ」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

いるんだなあ、と思う生きもの、キツネです。

2002年から2009年に野鳥の会レンジャーが確認した記録が残っています。2017年にはヤマガラの会の酒井さんが牧場で写真撮影し、2021年には小川さんが帰宅時に料金所方面の車道を横切るのを目撃しています。

最新の記録は2022年、九州大学が行う生物調査で、水の森に仕掛けたセンサーカメラにばっちり動画で写っていました。ちょうどカメラの方を振り向いて、ぴかりと眼が光るところです。実は、市民の森50周年記念映像に採用しています。映像をご覧くださいの方はお気づきでしたか？



キツネの巣穴は砂質の原っぱや乾燥した明るい林に作られ、特に小高い丘の頂上近くで、あたりを見渡すことができる陽当たりの良い場所に多いそうです。このへんでそういった場所は…きっと牧場ですね。牧場周辺に広がるススキの斜面がイメージにぴったりです。12月から2月が発情期にあたり、この時期は鳴き声もよく聞かれる次期。イヌより甲高くキャン・キャン・キャンと3回鳴いたり、またはウキアと鋭い一声をあげたりするそうです。牧場の職員さんや警備員さんに、いつか聞き取り調査してみたいなあ。

キツネのエサになるのは、ネズミやノウサギが好物で、他にヤマドリなどの地上を歩く鳥たち、ハビ、カエル、バッタやコオロギなどの昆虫、マタタビやアケビなどの果実も。全部油山にあります。

牧場で繁殖や子育てを行い、水の森などの森林でエサを求めて生きる、そんな姿をなんとなく想像できますね。いろんな環境がミックスしている油山の象徴とも言えそうです。

私が森にいる理由

会員にお話しを聞くコラム。第3回は、九反さんです。

○ 動機

田舎育ちで川や山が身近にありました。

人のためにもなり、自分のストレス解消にもなることを、と思い立ち、自然の中で過ごすボランティアをネットで探しました。

○ 作業について

思いのほかハードで、体力向上につながり、睡眠もよくとれます。草刈り、木を伐るのは大変な労力。もちろん、仕事が優先なので、天候、体調を考えて参加しています。

○ 入会1年余をふりかえり

安全講習では、いろいろ学び、AEDの場所を尋ね、管理事務所にあるのを知りました。安全に関する情報共有は大切だと思います。

現役で勤務をしている人が、より参加しやすくするためには、日曜以外の日（翌日が休日の日）の活動日があってもいいかもしれません。

油山では、森会の活動地である、アカマツ林、カブ森にのみ、行っています。1年を通し、うつりゆく空気や緑の色を楽しんでいます。



アカマツの切り株に、幼木が定着。木嘘（きうそ）を置くと、自然の正月飾り。（柴戸）

うん・え一会報告

2022年8月21日(日)、9:30~11:30
出席者: 11名

1. 6~8月活動報告(詳細は会報143号参照)

- 6月26日(日) 備品管理
- 7月3日(日) カブトムシの森草刈り作業
- 7月24日(日) カブトムシの森 昆虫調査
- 8月7日(日) カブトムシの森 幼木・希少植物育成のWS希少植物の育成WS
- 8月21日(日) うんえ一会、備品管理

2. 9~12月 活動予定

- 9月4日(日) 木工教室
- 9月25日(日) 草木染め
- 10月2日(日) アカマツ林草刈り・萌芽枝刈り
- 11月6日(日) カブトムシの森作業(楡木用材伐採)(予備日11月13日)
- 11月20日(日) アカマツ林草刈り・萌芽枝刈り、広葉樹除伐・材処理
- 12月4日(日) うんえ一会・アカマツ林作業(草・萌芽枝刈り、ヤード整備)

3. その他

- ① 7/24 林政課・JR九州打合せ結果報告
- ② カブトムシの森 幼木・希少植物の育成WS報告
- ③ 納会内容・準備について
- ④ 活動時のコロナ対策について

4. 発送作業 ①会報144号



活動予定(2022年12月~)

- ★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行
〈うん・え一会〉〈勉強会〉は雨天決行
活動時間: 9:30 集合 ~ 15:30 解散
- ★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。
- ★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。
- ★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)でご参加ください。必要な持ち物は いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ・筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。
- 12月11日(日) 納会(柏陵高校研修準備)
カブトムシの森、アカマツ林にて今年の作業を皆で振り返り、これからの作業に思いを巡らし夢を語り合ひましょう。
- 1月13日(金) 柏陵高校研修(対外支援活動)
アカマツ林にて、幼木探し、松葉地掻き及び下草刈り、除伐体験
- 1月15日(日) アカマツ林作業
広葉樹の除伐・材処理、萌芽し刈り及び作業道補修用材の確保を行います。
- 1月29日(日) カブトムシの森作業
伐採、草刈り、落ち葉掻きをします。
- 2月5日(日) アカマツ林作業
広葉樹の除伐・材処理、萌芽し刈り及び作業道整備を行います。
- 2月12日(日) カブトムシの森作業とシイタケのコマ打ち
・カブトムシの森作業
伐採、草刈り、落ち葉掻きをします。
・シイタケのコマ打ち
伐採したクヌギを玉切りしてシイタケ菌を打込みます。
- 3月5日(日) 総会(定点写真)
当年度議題 活動実績報告、世話役振り返り、会計報告、次年度議題一役員、会員、活動、予算の関連
- 3月19日(日) アカマツ林作業
広葉樹の除伐・材処理、萌芽し刈り及び作業道整備を行います。

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊

編集担当: 川上、平野、鎌田、静間、松雪